

躍動するキッズ & 円熟のシルバー



地域交流と文化の祭典 19グループが熱演

さわやかな秋空が広がった10月20日、第3回「地域交流と文化の祭典」がカレッジ・ふれあい両ホールにて開催されました。この催しは、グループわ文化部会が総力をあげて2月前から準備。今年は、子ども団体が7グループとなり、文化部会の12クラブに併せて、19グループとなりました。（事業部：井口久美子 写真：木村成男）

10時過ぎ、「北神戸太鼓団Don努鼓」による力強い和太鼓の演奏で幕開け。午前、午後と合計19演目が演じられ、手話ソング同好会は、3か月かけて振付をした、東北の応援歌「花は咲く」を披露。最後は15時30分、混声合唱団コーロの美しいハーモニーで幕を閉じました。どのグループも、シルバーの円熟と子ども達の躍動感溢れる演技に、会場は終日、大きな拍手と歓声に沸きました。

ふれあいホールでは、「絵手紙クラブ」や同窓会会員による絵画、写真、陶芸、俳句、川柳を展示。来場者を楽しませてくれました。

中でも、熱演ぶりが際立ったのは、西区の中1・2年生の女子4人のロックダンス（チーム名：ベイビーキー）。メンバーの息もぴったりで、素晴らしいリズム感と、躍動感溢れる踊りに観客は釘付け。割れんばかりの拍手・喝さいを浴びていました。メンバーは、息を弾ませながら、「楽しかった」「思う存分踊れた」と、晴れやかな笑顔でした。ケアハウス「まんてん垂水」から、職員とともに7人のお年寄りが来場。午後1時間半程度の観賞でしたが、日頃からボランティアに伺っているクラブ員とは、顔なじみの関係。「どの演技も楽しかった」「箱を



使ったマジックで、人が入れ替わったのには驚いた」「また来たい」と、楽しそうに話してくれました。

会場で熱心に鑑賞していた、海野龍英さん（食文16期）と宮里寿子さん（国9）に感想を聞きました。

海野さんは「祭典を通してたくさん感動と夢をもらった。中でも、今年は子供たちが主役になったことは、とても嬉しく思いました」と。

宮里さんは「印象に残った演目は、どどみくらぶとSCハワイアン。でも、先日の学園祭より盛り上がり欠けるのは何故かな？ 各グループの技量は上達しているが、何か全体を貫く連帯感のようなものが、不足しているように感じました」と話してくれました。世話役の小林精一・部会長は「子ども団体が7組に増え、充実した。あとは、集客をどうするかが課題。開催の時期やPRの方法を検討する」と総括していました。

【出演団体】KSCハワイアンフラ、大正琴プリムラ、おはなし糸車、KSC手話ソング同好会、KSC男声合唱団、SCハワイアンズ、KSC民謡クラブ、KSCマジッククラブ、わらべ、詩吟同好会、うらしまたろう、混声合唱団コーロKSC〈子ども団体〉＝北神戸太鼓団Don努鼓、どどみくらぶ、G★clef、DANCE SCHOOL ひよっこ、静山会津軽三味線、六甲道児童館銭太鼓クラブ&楽遊クラブ銀雅、神港園踊躍クラブ。

＝写真は銭太鼓の競演④と鑑賞する施設の人たち